

## 千葉県小学生バレーボール連盟 平成21年度 春季審判研修会 報告書

1. 日 時 平成21年4月26日(日) 9:00~15:30

2. 場 所 南房総市ふれあいスポーツセンター

3. 参加者 参加チーム 22チーム 63名参加

参加チームは、南房総支部の男女16チームと他の支部の6チームあわせて22チームに参加いただいた。モデルチームは南房総支部の千倉、館山エンジェルス、ミサキ、大貫、昭和キッズ、岩井の各チームで、講師はA班 市川 松本 宮本、B班 高橋 栗原 岩上の各講師が担当し、講師6名を含め参加者数は約70名であった。地元の岩井ジュニア・シックスチーム関係者の皆様には前日からの準備を含め大変お世話になりましたこと御礼申し上げます。

4. 内 容

1) 日小連審判研修会伝達事項説明(市川・実技指導高橋)

・改正項目

1. 両足より上部の身体のいかなる部分が、相手コートに触れても、相手のプレーを妨害しない限り許される。
2. 競技者が、ネットに触れても、相手方のプレーを妨害しない限り反則とはならない。競技者は、相手方のプレーに影響を与えない限り、ネットを含め、支柱、ロープ、あるいはアンテナ外側のいかなる物体に触れてもよい。
3. ネット近くの競技者の反則

競技者が相手のプレーを妨害する行為とは、次のことをいう。

ボールをプレーする動作中に、ネット上部の白帯やアンテナの先端80cmまでの部分に触れたとき。

ボールをプレーしているときにネットの支持を得たとき。

アドバンテージを得ようとしたとき。

正当なプレーの試みに対して妨害するような動作をしたとき。

4. 正規の競技の中断は、監督だけが要求することができる。ただし、監督が不在の時は、ゲーム・キャプテンだけが要求することができる。

国内大会では監督がいてもゲーム・キャプテンも要求することができる。

5. 公式記録の記入方法の変更

不当な要求の記入欄が新設された。

最終結果欄の記入について、セットの勝者には「1」、セットの敗者には「0」を記入する。

・重点項目

- ・公正・公平な立場で、ルールを正確に適用し、ラリーの継続を大切にして、観衆・マスメディアを魅了するようなダイナミックなプレーを引き出す審判実践を心掛ける。

- ・審判員は、役員、競技参加者に対する言動に十分注意し、相互の信頼関係を築く。
- ・審判技術の向上を目指すために日々の研鑽に努める。
- ・技術統計については、より正確な判定とデータ作成を行うことができるようなスタッフのスキルアップを図る。

2) 公式記録用紙記入方法について ゲームごとに説明(栗原・宮本)

3) 実技講習(2コートで行った)

ルール改正に伴う説明の他、審判実技はA・Bの2コートに分かれて審判割に沿って受講していただき、セット終了後、コントローラーからそれぞれ講評を行った。

初めて主審・副審をする方が多く、審判の場数を踏んで経験を積んでいただくことが重要だが、1プレイ終了後は 吹笛はすぐ吹き、笛を嚙んで吹笛する。音が小さくならないよう気をつける ボール方向のラインズマンと副審を確認してから サイドを示す。そして、ハンドシグナルを出す。吹笛後、一連の動作はリズムカルに行うようお願いした。

副審については、ハンドシグナルは、主審に追従する。また、今回改正されたペネトレーションに関する反則は見極めが大事である理解していただいた。

記録については、記録に間違いがないよう一つ一つ確認しながら落ち着いて記録する。自分の記録と点示の得点をいつもチェックする。

ラインズマンについては、吹笛と同じタイミングでフラッグが振れるようボールに集中する。素早く振る。等々について、参加者に研修をしていただいた。

今回初めて講師として参加いただいた東上総支部の岩上さんのコメントです。

今回、南房総市で開催された千葉県小連主催の審判研修会に講師として初参加させて頂きました。

今年度はルールに大きな変更があり、特にタッチネット、パッシング・ザ・センターライン(ペネトレーション・フォールト)については実際のゲームの中で確認することができた。モデルゲーム進行の中でも新ルールが適用される場面が多々あり、審判、指導者、そして選手達が『反則』と判断してしまうこともあったが、大きな混乱が起きる事無く進められた。このルール改正はネット際の反則が緩和されたのではなく、ラリーが続き楽しいゲームにするというものであって、好意的に反則を犯して良いものではない。ほかの改正点も市川審判規則委員長、高橋副委員長から丁寧で解かり易い説明があった。

私は、今回の審判研修会に参加し、審判員である意味、ルールの再確認が出来て、今後の試合をするためのチーム活動に必要な研修会であったと感じた。また、受講者からの質問、意見に対して回答することでバレーボールという競技を基本から考える良い機会となった。初参加となった研修会だが、バレーボールをする上で今後たくさんの指導者・関係者の参加が必要であり、互いの理解度を確かめることも大事であることも感じた。

報告者  
審判規則委員会  
市川 英一